

2023/7/10 (月)

朝の礼拝

聖書 マタイによる福音書 20 章 1-15 節 (新約聖書 38 頁)

わたしはこの最後の者にも、あなたと同じように支払ってやりたいのだ。自分のものを自分のしたいようにしては、いけないのか。それとも、わたしの気前のよさをねたむのか。(14,15 節)

気前のよさ

イエスの時代、古代では最も失業者が多かった時代でした。ぶどうの収穫期を迎えたぶどう園の主人は収穫のために広場へ労働者を雇いに行きました。夜明け、九時、正午、午後三時、そして五時にも労働者を集めに広場へ行きました。

午後六時、最初に、最後に雇われた者から一デナリオンを受け取りました。当時の一日の賃金、生活費です。最初から雇われた者はもっともらえるだろう期待していましたが、同じでした。確かに約束通りですし、他の者たちとは賃金の約束はしていませんでした。

時給は努力して働いた時間に従って等しく報われるという考えです。産業革命以降、工場で働く人が増えて一般的に広がった考えです。しかし同時に人間を均一化し、歯車のように取り替え可能なものにしました。障害者という考えもこの頃から生まれとされています。

誰にも雇われなかった人は病弱で身体の不自由な人だったのでしょうか。「気前のよさ」は原語では「善」という意味と同じ単語が使われています。そして「ねたむ」は「目が曇っている」とも訳されています。天の国、愛はこの世の世界とは別の世界を見せています。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたはぶどう園のご主人のように広場に残るわたしたちを見つけ、ぶどう園に送り、あなたと共に喜び、感謝し、互いに愛し合う世界へ導かれます。どうかわたしたちの過ちを赦し、わたしたちの足りないところを補い、あなたと共にある平和に与らせてください。今、豪雨により被災している地域に必要な支えが与えられますように祈ります。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン